

大学発イノベーション分科会セッション

◆ イノベーション創出に向けた大学等の知的財産の活用 ◆

大学の立場からイノベーションを加速するには、どのような、知財戦略、研究戦略が必要か-現在の課題と今後の展望の討論-

オープンイノベーションへの流れに代表されるように、これまで以上に大学に対する社会的期待は高まっています。そしてこの期待に対し、科学コミュニティは自ら研究開発活動の意義や在り方について考え、改善し、行動し、説明する責務も合わせて負わなければなりません。そのためには、学術的な研究成果をイノベーション創出につなげる方策を分析・研究・提言する活動が必要です。本分科会はこのような現状認識のもと「イノベーション創出に向けた大学等の知的財産の活用」をメインテーマとし、2015年4月に発足しました。今回の企画セッションでは、初回の年次大会でもあり、まず、分科会のメインテーマである「イノベーション創出に向けた大学等の知的財産の活用」について、大学の立場からイノベーションを加速するには、どのような、知財戦略、研究戦略が必要か? -現在の課題と今後の展望の討論- と題し以下の4名の講演後、パネルディスカッションを現状の分析と今後の検討課題の明確化を行う。

1. 大学発イノベーション創出の戦略的知財活動の現状と課題を考える～ストック、フロー、変換の三要素から眺めた知財活用の要諦

三木俊克 (独立行政法人工業所有権情報・研修館 (INPIT))

大学から生まれる技術や知的財産のストックを活用してイノベーションを生み出すには、大学の内外の知的ストック間での価値フロー生成 (例えば、事業構想を検討・立案しようとする人材、そうした人材と共同作業ができる知的財産マネジメント人材、技術デューデリジェンス能力をもつ人材等) 間での価値フロー生成) を促し、事業化シナリオ等の新たな知的ストックをつくるプロセスを強化していくことが重要と思われる。本講演では、大学発イノベーション創出における戦略的知財活動の現状と課題等を、こうした観点に立って考えてみたい。

2. 大学発特許出願の現状と傾向 中根寿浩 (日本技術貿易株式会社 IP 総研)

日本および海外における大学の特許出願および権利化の現状と傾向を分析する。特に、日本、米国、ならびに近年の出願件数の伸びが著しいことで知られる中国に焦点をあて、自国出願状況、外国出願状況、および産学連携に伴う大学と企業との共同出願状況について比較分析を行う。

3. 大学の研究力強化の方策 池田雅夫 (大阪大学)

文部科学省の「研究力強化促進事業」に見られるように、大学の研究力強化が叫ばれている。その研究力は何で測るのか、研究力強化のためには国は何をしているのか、大学はどのような方策を考えているのか、それらを紹介し、今後の課題を述べる。

4. 大学発イノベーション分科会のご紹介と現在の知財戦略 鈴木睦昭 (遺伝研)

本分科会のミッションと今までの活動内容、および今後検討する課題をご紹介するとともに、現在の知財戦略本部の知財戦略などを例示し、今後の課題を提案する。

司会：原田隆 (東工大)

大学発イノベーション分科会セッション

◆ イノベーション創出に向けた大学等の知的財産の活用 ◆

【略歴】 (敬称略)

三木 俊克 (工学博士) 独立行政法人工業所有権情報・研修館(INPIT) 理事長

昭和50年山口大学奉職。平成3年より産学連携関連業務も兼務し、平成12年より共同研究開発センター長、TLO 取締役、ビジネスインキュベーション施設長等。平成16年工学部長・大学院理工学研究科長。平成19年副学長(学術研究担当)。平成23年10月より現職。米国物理学会等の会員。

中根 寿浩 日本技術貿易株式会社 IP 総研 主任研究員

経歴：2006年慶応義塾大学大学院理工学研究科修士課程修了。同年より日本技術御貿易株式会社 IP 総研にて知的財産権のリサーチ・コンサルティングや、検索講習会をはじめとする知財研修・教育業務に従事。2014年特許検索競技大会(一般財団法人工業所有権協力センター主催)最優秀賞。AIPE認定知的財産アナリスト(特許)。

池田 雅夫 大阪大学 シニア・リサーチ・マネージャー/特任教授

1971年大阪大学大学院理工学研究科修士課程修了。1973年より神戸大学工学部に勤務、1990年システム工学科教授。1995年大阪大学工学部機械系に異動。専門は制御工学。2010年定年退職し、大阪大学大型教育研究プロジェクト支援室特任教授。大学執行部に対する研究戦略推進支援、教員に対する競争的資金獲得支援等のURA業務に従事。2013年8月～2015年8月の間、副学長(URA担当)。

鈴木 睦昭 国立遺伝学研究所 知財室室長

静岡薬科大学大学院博士課程修了(薬学博士)、国立生理学研究所、テキサス大学オースチン校博士研究員、静岡県立大学環境科学研究所助手、日本たばこ産業株式会社プロジェクトリーダーをへて2006年より現職。東大先端知財コース(IPMS)4期生。知的財産マネジメント研究会(Smips)産学連携分科会オーガナイザー。文科省技術参与(2013年)

原田 隆 東京工業大学 情報生命博士教育院 特任助教

2004年より 独立行政法人産業技術総合研究所 産総研特別研究員、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 NEDO フェロー(産業技術総合研究所産学官連携部門派遣)2008年 筑波大学産学連携本部 アシスタントコーディネーター、2012年福井大学産学官連携本部 技術移転推進室特命職員、2012年同大学産学官連携研究開発推進機構 URA オフィス URAを経て、2014年より現職。